

【チリ地震津波】

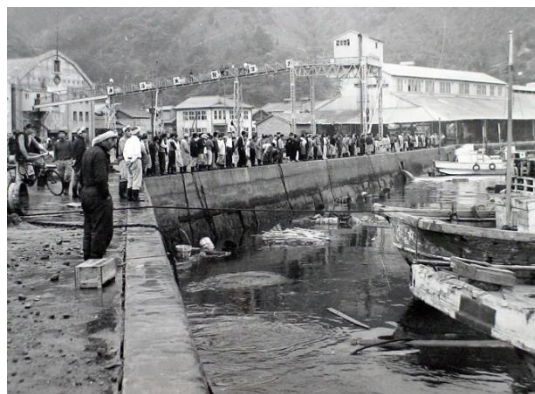
昭和35（1960）年5月24日早朝、前触れとなる地震も警告もなく太平洋沿岸を襲った津波は、日本からはるか17,000km離れた南米チリで起きた史上最大級の巨大地震にともなって発生したものでした。

このように日本沿岸から遠く離れた場所で起きた地震によって発生した津波を「遠地（えんち）地震津波」と言います。

全国各地で142人が死亡または行方不明となりました。釜石では幸い人的被害はありませんでしたが、商店や工場が水浸しとなり、漁船や漁具・養殖施設が流され、道路が破壊されるなど大きな被害を受けました。



市営ビル付近（現在の浜町1丁目）



釜石魚市場付近（現在の魚河岸）

発生日時：1960年5月22日 19時11分

発生場所：チリ・バルディビア近海

規模：マグニチュード 8.5

最大震度：6

最大波高：18m（チリ沿海）

◆家屋被害

全壊	17戸
半壊	25戸
家屋流失	11戸
床上浸水	768戸
床下浸水	530戸

◆被害額（単位：千円）

家屋関係	99,840
水産関係	281,353
商工業	96,912
農林関係	21,141
下水道	1,000
道路・橋梁	30,600
釜石製鉄所	100,000
合計	630,846

【被害状況】チリ地震津波 1960 より